

京大病院

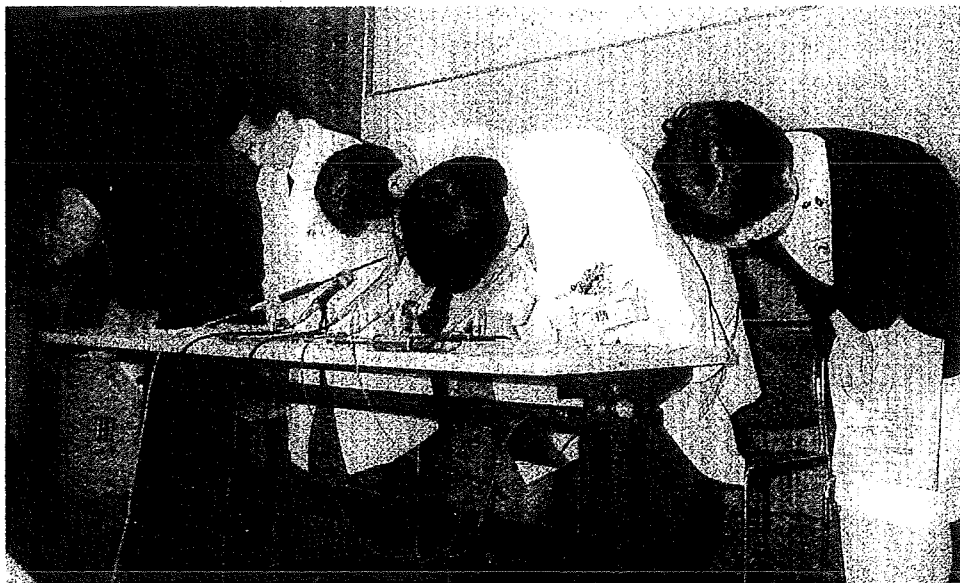
消毒液誤注入患者死ぬ

呼吸器にエタノールに2日間気付かず

京大病院(京都市左京区、本田孔士^{ほんだこうし}病院長)で入院中の女性患者(17)が使っていた人工呼吸器に誤って消毒用エタノールが注入され、この患者が中毒死していたことが7日、分かった。病院から届け出を受けた京都府警川端署は、医師や看護婦らから事情を聴くなど、業務上過失致死の疑いで捜査を始めた。病院側はエタノールの注入が分かった後、急性アルコール中毒の対症療法をしていなかった。東京都立広尾病院に入院中の主婦が昨年2月に点滴の誤投与で死亡した事故で、医師ら9人が3日、同容疑などで書類送検されたばかり。高度な医療レベルを誇る総合病院での相次ぐ医療ミスに、管理態勢を問う声が高まりそうだ。

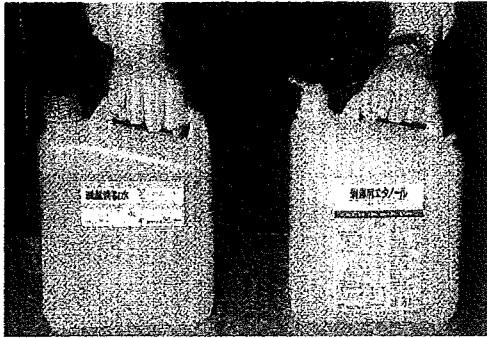
(31面に関連記事)

京大病院人工呼吸器エタノール事件
府警捜査／病院会見
2000年3月8日 毎日新聞(大阪)



京大病院の説明によると、乾燥した空気が肺など、女性患者の人工呼吸器などを痛めるのを防ぐため、定期的に蒸留水を注入

●深々と頭を下げ謝罪する本田孔士病院長(中央)ら ●看護婦が間違えたと同種の蒸留水(左)と消毒用エタノールのタンク
—京都市左京区の京大病院で7日午後、山田耕司写す



エタノール

エチルアルコールとも呼ばれ、各種のアルコール飲料にも含まれるので酒精ともいう。飲料、料用、化学工業用原料、溶剤などに用いられ、医療では手術部位の皮膚の消毒、医療用具の消毒などに使われる。大量に使うと肝障害、神経炎などの副作用がある。

【ことば】エチルアルコールとも呼ばれ、各種のアルコール飲料にも含まれるので酒精ともいう。飲料、料用、化学工業用原料、溶剤などに用いられ、医療では手術部位の皮膚の消毒、医療用具の消毒などに使われる。大量に使うと肝障害、神経炎などの副作用がある。

していた。2月28日午後6時ごろ、蒸留水を入れた合成樹脂製のタンク(4リットル)を、巡回の看護婦が誤ってエタノール入りのタンク(6リットル)に交換。3月1日午後11時ごろに気付くまでエタノールの注入を繰り返して、患者は2日午後7時54分に死亡した。蒸留水のタンクはベッド

急性中毒 治療せず

の下に置かれ、8時間に2〜3回、看護婦が50リットルの注射器を使ってタンクから取り出し、加湿器に補給。少なくなったら新しいタンクに取り換えていた。蒸留水とエタノールのタンクは、ともに白色で、形状もよく似ており、蒸留水と同じ病棟の倉庫に保管していたという。

病院側はエタノールの誤注入に気付いた後、すぐに蒸留水のタンクと取り換え

たが、急性アルコール中毒の対症療法は行わず、感染症対策の抗生物質の静脈注射を打っただけだった。死亡診断書には元々の病氣と急性心不全だけを記入し、血中アルコール濃度の検査もしていなかったという。

この患者は、呼吸不全を起さず生まれながらの難病で、10年以上前から人工呼吸器を装着。京大病院には昨年10月に入院していた。

病院側は「取り違えが死因かもしれない」として、3日午後、川端署に届け出、司法解剖で死因はエタノール中毒と判明した。

会見した本田病院長は「このような事故を起こしたことは誠に申し訳ありません。亡くなられた患者のごめい福をお祈りし、ご家族に深くおわびします」と謝罪。再発防止のため、蒸留水のタンクを小さくものに変更したことを明らかにした。

【大平誠、一色昭宏】